

質問者 日 域 究

大願寺山会計の実態

問 3月に大願寺山の借金返済計画が決まりました。その中で私は初めて知りましたが、大願寺山の借金を返すために、本来無関係の別の土地まで一緒に売り払って帳尻を合わせることを条件に県の許可が下りています。ところが、この考え方は随分前から堂々行われているとも聞きます。この非合法とも思われる手法はいつから始まったのでしょうか。

また、東栄の港の建設では工事を施工した広島県空港港湾部にに対し大竹市は多額の負担金を払っています。ところが東栄の工業団地埋立ではお金の代わりに県企業局に対して大願寺山の土をただで提供しました。大金を投じて掘り出した土を県にプレゼントしたのです。ではその提供した土の為に使ったお金は幾らでしょう。金額が分からなければ大竹市の負担の大きさも分かりません。それが、予算書のどこに記載してあるかお尋ねします。

答 晴海海面埋立事業などの土地を、大願寺山造成事業の解決のために活用するという考え方ですが、平成4年12月議会において既に示され

ております。

今回の土地を、内陸工業用地造成事業の土地として処分するという手法は、もちろん前もって売却処分できていれば、地方債発行額が少なく抑えられていたはずですが。しかし今から売却する土地であるため、処分できた時に地方債の償還財源に充てるという前提で地方債の発行額に含めるという考え方です。

これも現状にあわせて、とり得る方策を模索した結果です。

次に、大竹工業団地造成事業についてですが、大願寺山の土砂提供の理論付けは、あくまでも大竹市が「必要な宅地を造成する為の事業」を行うにあたって生じる残土処理を、広島県にお願いするということで進められてきた経緯があります。

そのため、大竹市の持つ有価物を、広島県が有価物として受け取ったという整理にはなっておりません。

用い「声の
利ください
「点字の
市議会だより」

市議会だよりの内容を録音した「声の市議会だより（テープ）」を貸し出しています。

また、「点字の市議会だより」は差しあげます。

ご希望の方は、市社会福祉協議会（☎52-2211）までご連絡ください。

質問者 山 本 孝 三

格差社会の現状認識と対応について

問 今、格差社会ということが社会問題となり、取り組むべき政治課題として論議されています。

格差社会といわれる現状認識について、経済格差、所得格差の拡大が指摘され、これが児童の学力にも影響を与えているとか社会保障制度の後退、行政サービスの切り下げと連動して、小泉内閣のもとでの構造改革・行政改革という名の政治が格差拡大を加速させているという批判の声も高まっています。

この格差問題について、所得格差は所得階層・納税ランク別に見た数年間の動向、高齢者層においては、介護認定者数における給付受給者、保険料納付状況、生活保護世帯の増減動向、また経済援助制度のもとの対象児童の実態、そして家庭の経済格差を生む雇用・就労面での正規社員、非正規社員、パート、アルバイト等の状況について説明を求めます。

また、格差社会の現状認識について一定の実態把握がなされているとすれば自治体段階の対応策は、どうあるべきかお示しください。

答 本市で構成比率の高い80万円以上から400万円以下の所得階層割合は、平成7年度と平成17年度を比較すると、減少しています。

また、これよりも高い所得階層の割合も減少しています。逆に低い所得階層の割合が増加傾向であり、この傾向は全国的な傾向と同様です。この低所得者層の増加は、高齢化による就業者人口の減少、年金生活者の増加等が一因になっているのではないかと考えられます。また、介護保険料の段階別納付義務者数の推移については、低い保険料段階の方の割合が増加しており、生活保護の被保護世帯数と被保護人数の推移は近年、ほぼ横ばいの状況です。

また、就学援助の認定数については、平成8年度と平成17年度を比較して約1.7倍に増加しています。本市においても、給付・貸付・減免制度等を行っていますが、社会現象である経済的格差の根本的な解決のためには、国レベルでの社会保障制度の見直しや職業支援対策などを積極的に進めて行く必要があると考えます。

また、ニート、フリーター対策として、新たな職業・雇用機会等を創出し、一度失敗しても、再びトライできる仕組みについても構築していく必要があると考えています。

市広報について

問 市広報の役割について、市長はどのように考えておられますか。

5月号の130億円の借金返済、平準化方法に関する説明記事について、説明は足りたと判断されていますか。

130億円の借金を作った行政責任にも、50億円の借り換え手段としての自然公園事業などについても一言も触れていません。これでは情報の提供とはいえません。

情報の共有、市民参画の理念とは相反する内容ではありませんか。

今後の説明責任はどのように果たされますか。

答 市広報は、市の情報をわかりやすく伝え、情報の共有化を

用語の解説 格 差 社 会

国民の間の格差（特に経済的格差）が顕在化した社会。内閣府の資料によれば経済格差を確認する統計データは無いが、ニート、フリーター等若年層の就業・生活実態の変化は将来の格差拡大要因を内包していると報告されている。

図っていくという重要な役割を担っています。

今回の大願寺山造成事業の記事についても、広く市民の皆さんにお知らせし、ご理解をいただくという観点から、まずは骨格部分を中心に市の考え方を掲載させてもらいました。今後は、市民説明会を開催し、市民の方々の意見を伺いながら、その課題を整理し、市広報等に反映していきたいと考えています。



玖島川の小栗林井堰
いせき



大願寺山造成地(三ツ石側)

一般質問の詳細については、本会議録が9月上旬に製本されますので市役所情報コーナーまたは市立図書館でご覧ください。なお、市のホームページにも本会議録を掲載いたします。